

現代システム科学研究科

Sustainable System Sciences



<https://www.omu.ac.jp/ssss/>



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

持続不可能な現在から、持続可能な未来の創造へ。

——「現代システム科学」が開く未来——

現代社会には、気候変動や人口爆発による水・食糧・エネルギー危機といった地球規模の問題、富の集中と貧困、宗教・価値観の違いによる国家・地域間の対立、心の病と生きる意味の喪失、社会の高齢化の進行など、実にさまざまな問題が存在し、我々の暮らしに大きな脅威を与えています。

「現代システム科学」は、現代社会はこのままでは持続不可能であるという認識に基づき、現代社会を持続可能な社会に変革することを目指す学問領域です。ここでは、現代の複雑な社会をシステムとして俯瞰し、複数の学問領域を融合して現実の問題の解決に挑むような学びこそが重要であると考えられており、「現代システム科学域」との共通理念となっています。

ようこそ、 「知が出会うところ」に。

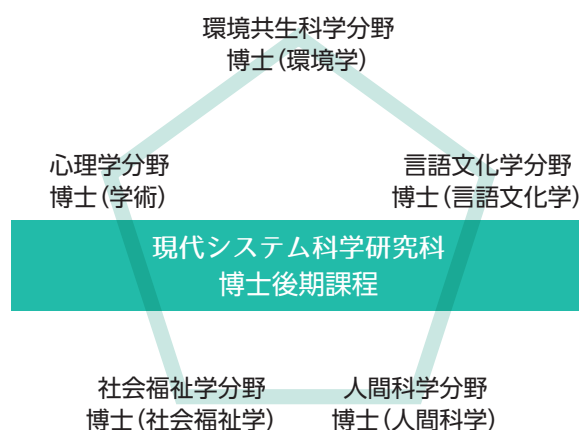
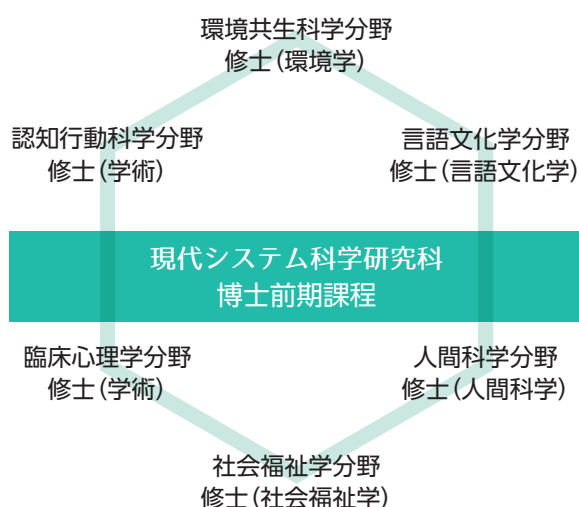
古代より連綿と続く人類の知の営みの中で学問は次第に細分化され、現代では文系／理系という区分が当たり前のように感じられるまでになってしまいました。学術研究の専門化それ自体は方法論を洗練させるために必要であり、今日の高度な研究は専門性に支えられている部分が多々あります。しかし人類の持続可能性に疑問符が突きつけられている現代において、専門化された知を俯瞰、横断し、現代の複合的な問題に取り組む新たな知の視点を構築することが求められていることも確かです。現代システム科学研究科では、このような時代の要請に応え、「専門分野が異なる人に自分の研究内容を分かりやすく伝える能力」「異なる分野の知見を組み合わせ問題解決する能力」を重視したカリキュラムを展開します。このような分野横断的な交流は、実社会での問題解決に役立つだけでなく、自らの専門的な研究を深め、新たな知の地平を切り拓くためにも有効な、多様で柔軟な視点を与えてくれます。



現代システム科学研究科長

牧岡 省吾

研究科の構成と、各分野で取得可能な学位



現代システム科学研究科における学びの特徴

—— 多様な知が出会い、未来を拓く視点が生まれる ——

現代社会を俯瞰的に捉える視点をもち、自らの専門的な研究を深化させながら異分野と協働して問題解決に取り組む研究者、高度な職業人を育成します。研究科全体を一つの専攻とし、各分野の教育研究が全方向的に他の分野と交流できる仕組みをつくります。

—— 高度なシステムの思考力と領域横断的応用力 ——

博士前期課程の「現代システム科学特論」「SDGs特別演習」では、すべての分野の大学院生が集い、目標を定めて協働することによって、現代の問題を様々な方向から分析し、異なる分野の方法論を組み合わせ、問題を解決するための能力を身につけます。

—— 専門分野の深い学び ——

現代システム科学研究科の各分野では、それぞれの学位に応じた専門的なカリキュラムが展開されます。現代社会で必要とされる俯瞰的な視点を備えた上で、自らの専門的な研究を深化させることができます。

取得可能資格

■ 中学校教諭専修免許状(社会) ※1

■ 公認心理師(受験資格) ※2

■ 高等学校教諭専修免許状(公民) ※1

■ 臨床心理士(第一種・受験資格) ※3

※1 一種免許状を取得し、修了要件単位に含まれる科目のほか、大学が独自に設定する科目の履修が必要です。

※2 受験資格取得には大学等での所定の科目を修得して卒業する必要があります。

※3 修了要件を満たすことにより受験資格が得られます。

環境共生科学分野

Department of Environmental Sciences



地域・国・国際社会レベルに広がる重層的な人と自然とのつながりを解きほぐしつつ、技術面のみならず法律や経済といった社会科学的知見を活用してその課題解決に取り組む能力を身につける教育研究を行います。博士前期課程では、それぞれの専門的知識と技能を用いて、高い倫理観、使命感を持って持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。

研究領域

自然科学系環境学(保全生態学、景観計画学、公衆衛生学、海洋環境学、環境化学、地質学、植物生産科学、都市防災学、環境デザイン学)、社会科学系環境学(政策、経済、私法)など

言語文化学分野

Department of Language and Culture



言語と文化をめぐる多様な課題に対して、鋭利な観察力と考察力を駆使して取り組み、言語の成立事情や背景にある社会や時代をも捉える教育研究を行います。さらに、言語と文化に関する高度な専門性と研究企画力および国際性を身につけ、現代社会が直面する諸問題の解決に柔軟に取り組むことができる能力の育成を目指します。言語文化学分野では国内外の文学や様々な文化的事象の研究、および個別言語学、対照言語学、社会言語学、応用言語学などの言語研究の知見を修得することができます。

研究領域

日本語文化学、英語圏言語文化学、日本語学、日本語教育学、英語学、英語教育学、言語情報学、社会言語学、対照言語学 など

人間科学分野

Department of Human Science



人間・社会・文化に関する諸課題に対して、深い科学的認識とその幅広い総合化によって、人間科学、社会科学の多様な専門領域を横断した学際的な教育研究を行います。博士前期課程においては、社会学、人文地理学、文化人類学、文化史、思想史、教育学、倫理学、哲学、人権・マイノリティ研究、ジェンダー研究、セクシュアリティ研究といった多様な領域の相互補完、相互触発を促すことによって、専門的知識を横断的、複合的に身につけ、重層的で柔軟な思考力と実践能力をもって主体的に現代の諸課題に取り組む高度専門職業人を育成します。

研究領域

思想史学、生命倫理学、人権学、ジェンダー論、性科学、家族社会学、女性史、政治思想、日本史、日本思想、東洋史、東洋思想、西洋史、西洋思想、教育実践、教育問題、現代教育、教育人間学、教育社会学、環境哲学、環境社会学、環境人類学、社会問題論、経済地理学、文化地理学 など

社会福祉学分野

Department of Social Welfare



少子高齢化の進行や社会的格差の拡大などから生じる社会問題を解決するための知見を生成するには、根拠に基づいた実践や援助が必要です。それは、現代社会の課題を多角的に問い直し、社会福祉の価値を再確認することを通してはじめて可能となります。社会福祉学分野では、社会福祉学理論、社会福祉に関連する政策、調査手法、ソーシャルワークについて学び、学術的かつ実践的な理解を深めた上で、政策的な立場あるいは臨牀的な立場から社会福祉をめぐる問題の解決を進めることができる能力を涵養します。

研究領域

社会福祉原論、社会福祉援助技術論、ソーシャルワーク理論、児童福祉論、高齢者福祉論、障害者福祉論、公的扶助論、地域福祉論、社会政策論 など

臨床心理学分野

Department of Clinical Psychology



臨床心理学分野では、現代における心の問題を理解するための背景となる視点を涵養しつつ、臨床心理学の専門的理論・知識・技能を身につけ、臨床心理士および公認心理師など高度な専門的業務に従事することのできる人材を育成します。授業科目は、臨床心理士受験資格、公認心理師受験資格の両カリキュラムに対応しています。具体的には、きめ細かい臨床実践の訓練と指導により、「臨床の知」を重んじたその時その場で生じる人と人との関係性についての視点を鍛え、臨機応変に来談者の心の歩みを援助できる、心理臨床家の養成を目指しています。

研究領域

臨床心理学（心理療法論、夢・描画・箱庭などのイメージ研究、遊戯療法、主観的体験についての研究、南極等の特殊環境の心理、発達障害研究、身体性研究）、精神病理学、ユング心理学、精神分析学

認知行動科学分野

Department of Human Cognition and Behavior



基礎的な実験系心理学を中心にヒトの認知と行動に関わる領域の研究・教育を行い、人間の内面的な状態に起因する問題から構成される現代社会が抱える複合的な課題の解決に取り組むことができる人材を育成します。具体的には、人が環境からの情報を処理する仕組み、心の発達、対人関係の心理過程などに重点を置いて、認知行動に関する高度な先端知識を体系的に学べるカリキュラムを編成しています。なお、認知行動科学分野では、指定の科目を履修することにより、公認心理師試験の受験資格を取得可能です。

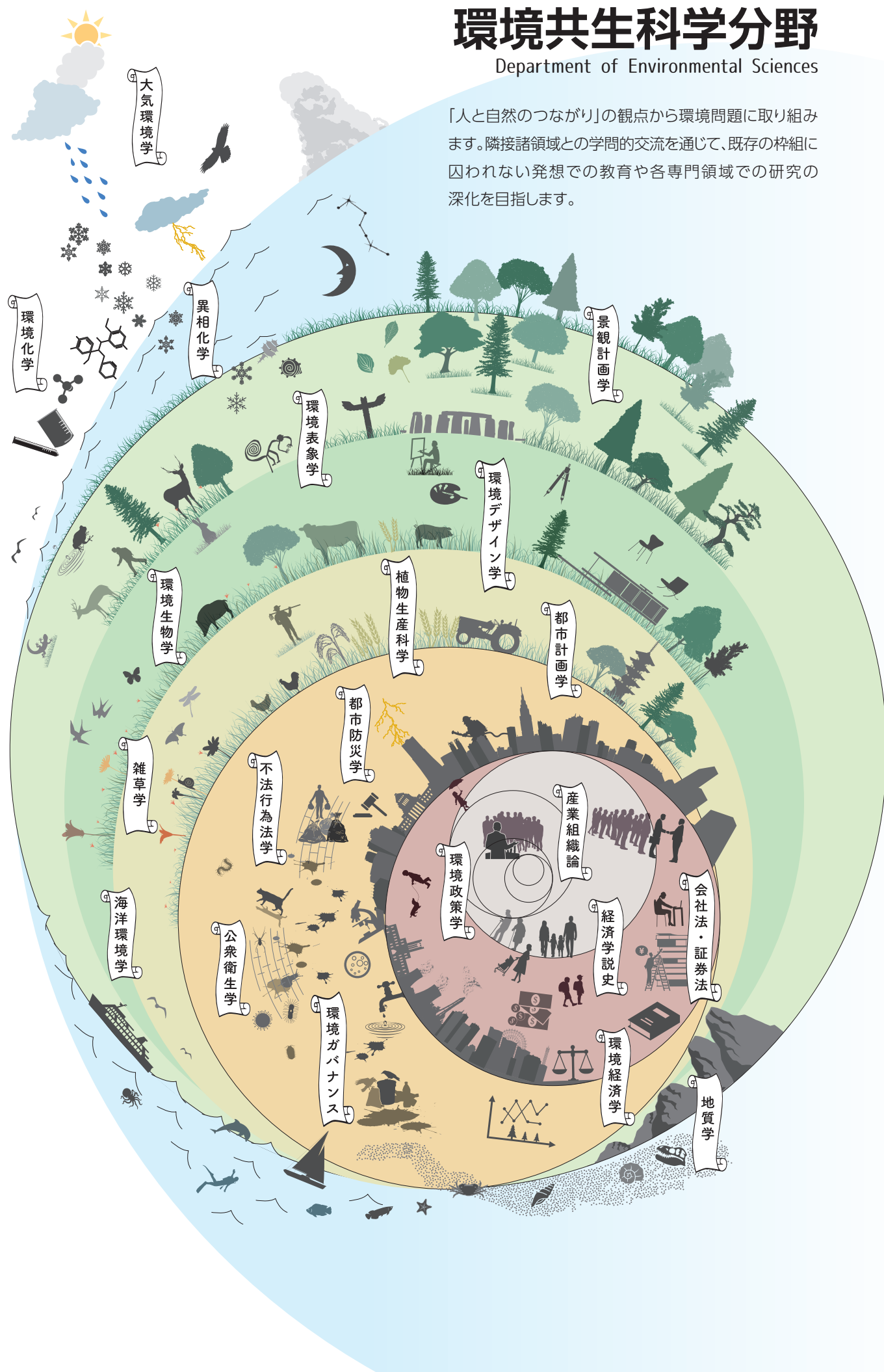
研究領域

認知心理学、認知情報学、知覚心理学、発達・教育心理学、青年心理学、老年心理学、感情心理学、社会心理学、環境心理学 など

環境共生科学分野

Department of Environmental Sciences

「人と自然のつながり」の観点から環境問題に取り組みます。隣接諸領域との学問的交流を通じて、既存の枠組に囚われない発想での教育や各専門領域での研究の深化を目指します。



言語文化学分野

Department of Language and Culture

言語と文化をめぐる多様な課題に対し、鋭利な観察力と考察力を駆使して取り組み、言語の成立事情や背景にある社会や時代をも捉える教育研究を行います。さらに、言語と文化に関する高度な専門性と研究企画力および国際性を身につけ、現代社会が直面する諸問題の解決に柔軟に取り組むことができる能力の育成を目指します。言語文化学分野では国内外の文学や様々な文化的事象の研究、および個別言語学、対照言語学、社会言語学、応用言語学などの言語研究の知見を修得することができます。



修士論文・博士論文の題目一部（令和3年度）

修士論文

- 日本語の「打つ」と中国語の“打”の意味拡張に関する認知意味論的分析
- 若年層会話におけるコミュニケーションスタイル

博士論文

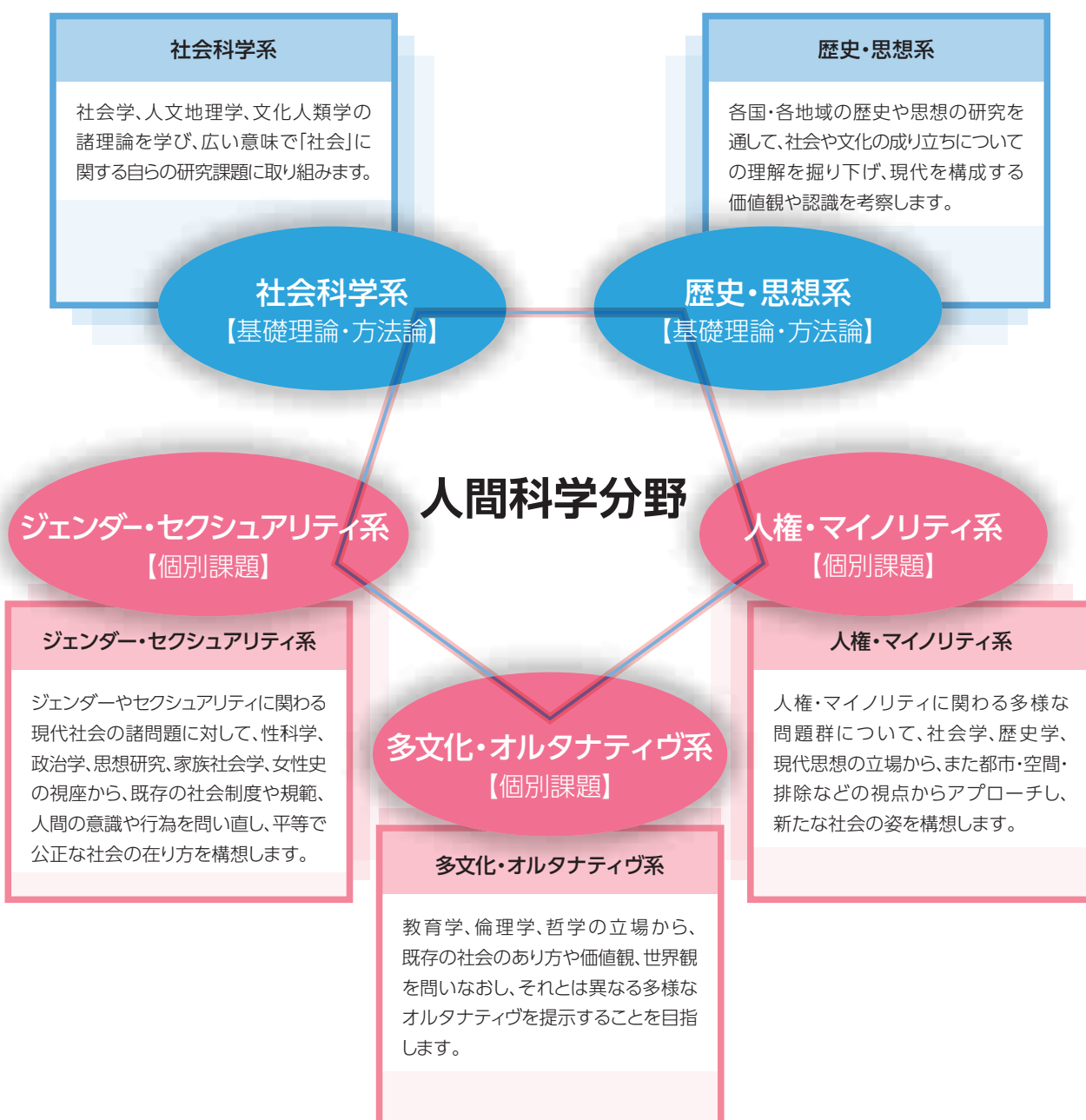
- 『源氏物語』の和歌表現
- 現代日本語の存在表現の研究

人間科学分野

Department of Human Science

基礎理論・方法論から個別課題まで、「社会科学系」、「歴史・思想系」、「人権・マイノリティ系」、「ジェンダー・セクシュアリティ系」、「多文化・オルタナティブ系」からなる5つの系を通じて、領域横断的な学際研究を行います。

社会学、人文地理学、文化人類学、文化史、思想史、教育学、倫理学、哲学、人権・マイノリティ研究、ジェンダー研究、セクシュアリティ研究をはじめとした多様な専門性からスキルを磨き、人間・社会・文化に関する現代の諸課題に挑みます。



社会福祉学分野

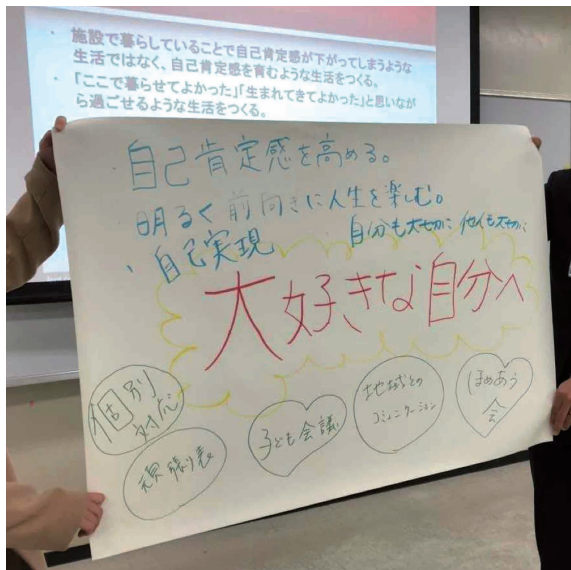
Department of Social Welfare

福祉問題に対する学術的かつ実践的な理解を深めた上で、政策的な立場あるいは臨床的な立場から、福祉問題の解決を進める能力を身につけることを目指しています。

社会福祉学分野では、人間としての存在・生存を支える実践と制度としての社会福祉がもつ根源的な意味・価値を問い直しながら、様々な局面で現われる福祉問題に対する理解を深め、多角的・学際的な視点から理論的・実践的研究を行っていきます。現在、貧困・社会的排除の深刻化など、生活困難のリスクが高まりつつあります。そのため、「生きやすい暮らし」の実現を希求する倫理的態度と、客観的かつ総合的な視座から福祉問題を捉え直し、その解決の方策を探究しうる能力を併せ持つ実践者・研究者の養成が強く求められています。

本分野は、社会福祉の複数領域において、政策運営から個別援助に関わる理論と実践について多角的かつ体系的に学び、高い倫理意識と見識をもって課題解決に必要なアプローチを提案できる人材の育成に取り組んでいます。

社会福祉実践の経験とする切実なテーマを探究する社会人院生が多いことが本分野の特徴です。そのため、仕事と学びを両立するための学習環境づくりに力を入れてきました。さらに、社会福祉学研究の広範な分野を概観する科目をカリキュラムの中核に位置づけ、並行して社会福祉実践の最前線を知るための機会を実習として提供しています。



人間の尊厳と社会の構造を繋ぐ福祉のあり方を、具体的・臨床的に追求します



さまざまな世代にわたる院生相互の共同的な学びを重視しています

臨床心理学分野

Department of Clinical Psychology



臨床心理学分野の特徴

1 個別指導、少人数教育

臨床心理士有資格者専任教員5名が少人数の修士大学院生に指導にあたるので、個別論文指導、個別スーパーヴィジョン(以下SVと表記)が充実しています。



2 充実した実習

学内実習としては、大学付属の心理臨床センターで、様々な問題、年齢の来談者に対して、カウンセリングや心理検査を担当します(院生一人あたりの事例担当機会は十分にあり修了までに幅広い臨床経験を積むことができます)。学外実習としては、医療・福祉・教育の実習施設にて、継続した実習を行います。例えば、精神科病院でのデイケア・グループワーク補助スタッフ、小児科クリニックでの陪席及びプレイセラピー、総合病院精神科での陪席及び心理検査、家庭児童相談室での母子グループスタッフ、児童養護施設での生活支援、府立高校での教育相談、適応指導教室での支援スタッフなどがあります。学内実習、学外実習ともに、学内教員による個別SVを毎週実施し活動の充実を図っています。

3 イメージを用いた心理療法

専任指導教員がみな深層心理学的アプローチを主に臨床活動を行っているため、無意識からの産物であるイメージやファンタジーに注目した臨床実践・教育が行われています。夢、箱庭、描画などの創作、語りをイメージとして聴く、といったことが重視されています。

4 修了後の進路

修了後、臨床心理士、公認心理師受験者の合格率は限りなく100%に近くなっています。就職先の例としては、精神科病院や心療内科の心理士、小児科や整形外科の心理士、児童養護施設や各自治体の心理士、NPO法人就労支援施設の心理カウンセラー、企業のメンタルヘルスに関わる心理士、各自治体の教育センターの心理カウンセラー、小・中・高校のスクールカウンセラー、大学学生相談室心理カウンセラー、臨床心理士養成大学院の教員などがあります。

5 修士論文タイトルの一例

「お笑い芸人になること」についての臨床心理学的考察／自然にひらかれる体験についての臨床心理学的考察／反抗期を通じた親子の関係性の変遷の物語について／「ぬいぐるみと寄り添って生きること」についての臨床心理学的考察／他でもない自分であるという感覚が揺らぐ体験の様相／「母親として生きること」についての臨床心理学的考察／思春期における異界体験に関する臨床心理学的考察-アニメ『電脳コイル』を通してみる現代の異界／不登校の生徒から受ける影響についての臨床心理学的研究／絵本体験を介した子どもとの関係性の変化についての臨床心理学的考察／慢性蕁麻疹患者が症状を通して語る人生の臨床心理学的考察



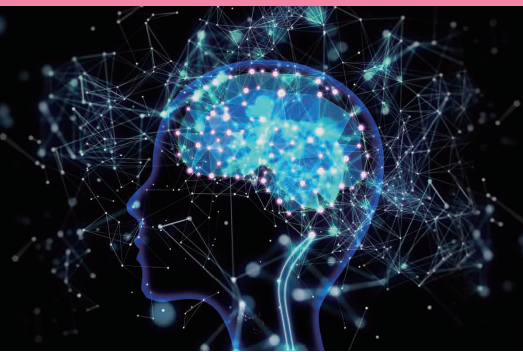
フィンガーペインティング

修了生の言葉

- 院生時代は、めちゃくちゃしんどかった。でも臨床心理士としてやっていく覚悟を決める2年間だった。人の深いところに触れる覚悟を自分が持てるかという問いだった。
- テクニックではなく、心理臨床家としての姿勢を植えつけられた。働いていてプレずにいられる。他の心理士を見ていると自分は幸運だったと思う。
- 個別SVで学ぶのは、先生の存在感。教わりました、ではなく身体で受けた。今も臨床現場で「先生だったら、こうやって聴くんだろうなあ」とよぎる。困った時に頼りました。
- 学外実習はめちゃくちゃしんどくて、めちゃくちゃ良かった。病院でも学校でも自由度が高くて、いろんなことが起きて、それをSVだったり仲間と話す場があり、鍛えられた。学生を信じていなければ、あんな自由な実習はできない。自由だからこそ、自分の強みも弱みも発見できた。
- 先生方は、無意識を仮定した心理学という共通言語で話していた。トラブルを悪いものと考えていない、ネガティブなことに意味がある、という空気を吸っていた。働いていて、無力感に耐えられる、言葉にならないこと、言葉以外のコミュニケーションを信じられる、症状にとらわれない、人と向き合う時にどっしりいられるようになっている。

認知行動科学分野

Department of Human Cognition and Behavior



認知行動科学分野では、ヒトの行動とところのはたらきを、行動－認知－ところ－神経－生理－脳の様々なレベルで解明するため、実験や調査、シミュレーションなどの実証的な研究手法を用いて研究に取り組んでいます。大学院生と教員が共同して研究に取り組むことを通して、心理学・関連諸科学の専門知を得ることに加えて、先端的な研究法を身につけることを支援します。

履修モデル

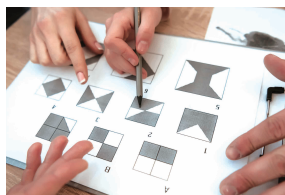
(公認心理師カリキュラム受講者)

高度な研究設備



近赤外脳機能イメージング装置 NIRSをはじめ、人工気候室、アイトラッカー、3次元位置計測システム、VR機器などを利用した高度な研究に取り組めます。

公認心理師カリキュラム対応



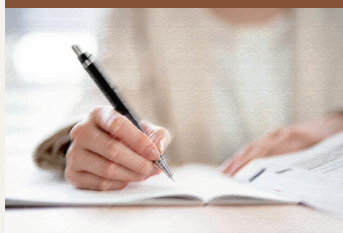
指定の科目を履修することにより、公認心理師試験の受験資格を取得できます。公認心理師・臨床心理士資格を有した教員の指導を受けることが可能です。

Per.	MON	TUE	WED	THU	FRI
1	認知心理学 特論	人間関係 特論		発達心理学 特論	
2	統計法 特論A	社会心理学 特論	環境心理学 特論	心理支援に 関する理論 と実践	
3					
4		精神医学 特論			
5		心理的 アセスメント に関する理論 と実践	現代システム 科学特論		

担当教員	研究領域	研究テーマ
岩佐 和典 (公認心理師)	感情心理学	感情や感性の心理物理学的分析とその応用
岡本 真彦	教育心理学	認知発達と教授学習過程に関する心理学的研究
河野 直子 (公認心理師)	老年心理学	老いや精神疾患に伴う認知機能変化に関する研究
河村 悠太	社会心理学	実証的研究を通してヒトの向社会性の有り様を探る
飛田 国人	環境心理学	ストレスフリーの建築環境創出に向けた心理学的研究
野津 亮	認知情報学	認知、情報、コミュニケーションという観点からの学習・最適化
畑野 快	青年心理学	生涯発達におけるアイデンティティ発達と心理的健康のダイナミクス
牧岡 省吾	認知心理学	言語、身体化認知、共感覚、知覚的意識のメカニズムに関する研究
武藤 拓之	知覚心理学	実験法と数理統計モデリングを用いたヒトの知覚・認知過程の研究

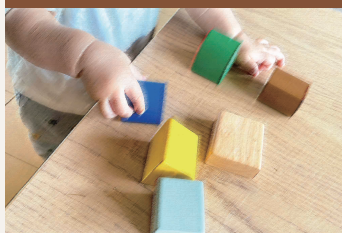
サポート体制

長期履修制度



職業を有している等の事情によって、標準修業年限(博士前期2年、博士後期3年)での教育課程の履修が困難な学生を対象に、より長い期間での履修を可能にする制度を設けています。

つばさ保育園



キャンパス内に保育園が設置されており、学生も利用することができ、仕事・研究と育児の両立を支援します。

研究奨励金制度



博士後期課程の学生を対象に、研究奨励金の支給を行っています。
※支給には条件・審査があります。

【参考】大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科 修了後の主な進路(2020年度・2021年度)

博士前期課程

大阪府、大阪市、名古屋市、明石市、堺市、広島県教育委員会、名古屋市教育委員会、堺市教育委員会、八尾市教育委員会、伊藤忠エネクス株式会社、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、日本アイ・ビー・エムシステムズ・エンジニアリング株式会社、日本赤十字社、富士経済グループ、トヨタ自動車株式会社、オムロン株式会社、NECソリューションイノベータ株式会社、株式会社シェア180、社会福祉法人富田林市社会福祉協議会、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター、ゴウクリニック、木島病院(小坂病院、橋本市教育相談センターを経て)、ねや川サナトリウム(博士後期課程単位取得退学後)、奈良県立医科大学附属病院(児童養護施設泉が丘学院、奈良県スクールカウンセラーを経て)

博士後期課程

国立大学法人大阪大学、国立大学法人奈良女子大学、学校法人四條畷学園(四條畷学園大学)、西九州大学(心理カウンセリングオフィス開業後)、愛知教育大学(児童養護施設和敬学園を経て)、京都府立高校、株式会社日吉、成基コミュニティグループ、株式会社キャリ・ソフィア、自営業(執筆業)、自営業(翻訳業)

【お問い合わせ】 土曜・日曜・祝日を除く平日の9:00~17:30

入試について

入試課(中百舌鳥キャンパス)
TEL.072-254-8319

教務について

教育推進課(中百舌鳥キャンパス)
TEL.072-254-9552



大学院

現代システム科学研究科

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1 中百舌鳥キャンパス